

# 2016年度 自己点検・評価【神学研究科】

C票

## <目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2017年 2月 23日

責任者	神学研究科委員長	作成部局	神学研究科
-----	----------	------	-------

### 2021年度に向けた教育研究目標

#### 【A票:教育研究目標1】

(タイトル)  
神学における専門的な知識を修得し、思索を深めることのできる人材の育成

(狙い内容)  
より高度な専門知識の修得を目指し、幅広くキリスト教に関する知見を具え、かつ思索できる人材を育成する。

#### 1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

4つの研究分野において開講しているすべての「特殊講義」(前期課程)に「特殊研究」(後期課程)を合併開講することで、講義内容を高度化する。後期課程学生と受講することで、主に、専門的知識の修得を図り、思索を深めるインセンティブを与える。

#### <変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

#### 2. 達成度評価

評価指標	合併開講状況 「旧約聖書特殊講義A~D」・「新約聖書特殊講義A~D」・「歴史神学特殊講義A~D」・「キリスト教思想特殊講義A~D」・「実践神学特殊講義A~D」	評価尺度	A: 4分野開講 B: 3分野開講 C: 2分野開講 D: 未実施	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: 4分野開講 B: 3分野開講 C: 2分野開講 D: 検討	

#### 3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		「新約聖書学特殊講義」・「歴史神学特殊講義」のみ合併開講	制度構築に向けて検討開始	制度構築	合併開講実施 (3分野)	・合併開講の実施(4分野) ・効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	有無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> C	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> C	B	A	A	A	
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 2分野を合併開講		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 前年度同様、2分野 を合併開講					

#### 【2016年度の進捗状況について】

2016年度は2分野を開講。2017年度開講科目検討において、新たに実践分野における科目を合併にて開講し、授業内容を高度化させ、専門知識の修得とその思索を深める。以降、科目担当ができる教員の任用などの計画についても懇談され、スケジュールについて確認された。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

評価尺度および、目標値の明確化を目指した為。

### 2016年度 of 取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? →  はい ・  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

#### <評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・カリキュラム改革の途中だと思われませんが、着実に改革を進めているように思われます。(A)
- ・合併授業への取り組みは評価できるものですが、前期学生と後期学生の役割などについても規定されていけばいい結構かと思えます。(C)
- ・合併開講について、修士と博士で、それぞれの課程に適したシラバスの準備が望まれます。(E)
- ・合併開講が高度化につながる理由について説明が望まれます。(H)

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)  
多様なキリスト教思想の知を身につけた人材の育成

(狙い内容)  
世界で展開する様々なキリスト教思想を学び、多元化社会において深い見識を養い、具体的な世界の問題を発見し、キリスト教的な立場から取り組み、解決できる人材を育成する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

「キリスト教思想特殊講義」において、多彩な講師によってグローバルなキリスト教思想を扱う授業を実施する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	シラバスへの明記状況	評価尺度	A: シラバス作成(確定) B: シラバス作成(原案確定・継続検討実施) C: シラバス記載内容検討 D: 未実施	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	有(無)

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		D 未実施	C シラバス内容検討・実施	B シラバス内容確定(原案)・実施	A シラバス作成(確定)	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	有(無)
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D	C	B	A	A	A	
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 未実施	実績 <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 科目担当者検討中のため、シラバス内容検討には至っていない。						

**【2016年度の進捗状況について】**

教育研究目標2の狙いを達成すべく、非常勤講師を含み授業担当者を模索中。領域として担当者の配置が困難であり、シラバス作成には至っていないが、科目内容・展開方法を視野に入れた担当者の検討をカリキュラム研究委員会・研究科委員会にて行っている。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

担当者の検討を優先したため、シラバス内容の検討に至っていない。よって、次年度以降の目標値を変更した。

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・多彩な講師によるキリスト教思想を扱う授業について取り組んでいるのは高く評価できます。(C)
- ・「キリスト教特殊講義」について、現状の説明があれば、より理解しやすいです。(H)

**【A票:教育研究目標3】**

(タイトル)

修士論文を執筆できる能力の育成 [前期課程]

(狙い内容)

神学における専門研究者の育成とキリスト教会やキリスト教主義学校教育、社会福祉や社会活動などの領域において指導的な役割を果たすことができる、高度な専門的知識を具えた職業人を育成する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

『修士論文優秀賞』を設置する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	『修士論文優秀賞』の設置状況	評価尺度	A:『修士論文優秀賞』設置 B:『修士論文優秀賞』原案確定 C:『修士論文優秀賞』原案検討 D:未実施	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	有・無

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		D 未実施	C 原案検討・作成	B 原案確定・運用	A 『修士論文優秀賞』設置	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> C	B	A	A	A	A	
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 未実施	実績 <2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 原案について検討 開始した。						

【2016年度の進捗状況について】 ←

『修士論文優秀賞』設置にあたり、審査方法・開催時期・内容など検討を実施予定。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

・修士論文を執筆できる能力の育成のために、修士論文優秀賞を設置する方向性は、好ましいと言えます。(C)

**【A票:教育研究目標4】**

(タイトル)  
博士論文を執筆できる能力の修得 [後期課程]

(狙い内容)  
神学における高度な専門研究者を効果的に育成するべく、学位論文の執筆にむけて指導する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

年度末等のしかるべき時期に研究発表の場を設ける。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	後期課程の学生による『研究発表会(仮称)』の開催に向けた検討状況	評価尺度	A: 開催している B: 開催についての原案を研究科委員会にて承認 C: 開催についての原案を懇談 D: 開催について検討している	変更有無  (有)無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: 『研究発表会』設置 B: 『研究発表会』原案確定 C: 『研究発表会』原案検討 D: 未実施	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		D 開催について検討	C 開催についての原案を懇談	B 開催についての原案を確定。研究科委員会にて承認。	A 『研究発表会(仮称)』開催	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	(有)無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	実績 C	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> B	A	A	A	A	
	見込・実績・目標 (値又は状況)	<実績> 開催について検討を行った。		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 原案について検討開始した。					

【2016年度の進捗状況について】 ←

『研究発表会』設置にあたり、審査方法・開催時期・内容・『神学研究』への寄稿など検討を実施。以降、より詳細な内容について原案を作成する。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

評価尺度および、目標値の明確化を目指した為。

2016年度の実績は、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ (はい)・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由:
- ②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・ 評価指標がより具体的になっています。(A)
- ・ 後期課程の学生による『研究発表会』の開催はぜひすぐに実行していただけたらと考えます。(C)
- ・ 現在は「研究発表会」のような発表の場はないのですか。(H)
- ・ 昨年度の第三者評価でも指摘されていますが、「研究発表の場」を設けることを目的化するのではなく、「研究発表の場」を用いて、どのような能力の修得を推進するのかを明確にすることが望まれます。(J)